



厚岸町

地方独立行政法人
北海道立総合研究機構

プレスリリース

Press Release

報道関係各位

平成29年9月1日

厚岸町と北海道立総合研究機構建築研究本部との 津波防災対策に関する協定書調印式について

◆ 概 要

釧路管内厚岸町（以下「町」）と地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部（以下「道総研」）は、町の津波防災対策の策定や実施について、町と道総研が相互に連携・協力することで、津波による被害を軽減し、住民の生命を守ることを目的として、津波防災対策に関する協定を締結することになりました。

つきましては、下記のとおり協定書調印式・共同記者会見を行いますので、お知らせします。

◆ 調印式および共同記者会見

日 時：平成29年9月5日（火） 15：30～16：00

場 所：厚岸町役場 2階庁議室（厚岸郡厚岸町真栄3丁目1番地）

出席者：厚岸町 町長 若狭 靖
北海道立総合研究機構建築研究本部 本部長 鈴木 大隆

◆ お問い合わせ先

厚岸町総務課危機対策係（担当：余西）

厚岸郡厚岸町真栄3丁目1番地

TEL：0153-52-3131 / FAX：0153-52-3138

E-mail：soumu@akkeshi-town.jp

北海道立総合研究機構建築研究本部 企画調整部企画課（担当：本荘）

旭川市緑が丘東1条3丁目1-20

TEL：0166-66-4217 / FAX：0166-66-4215

E-mail：nrb@hro.or.jp

◆ その他

- ・上川及び釧路総合振興局記者クラブと同時配付

背景 市町村等地域での被害想定と津波防災対策を実施するための課題

マクロ的な被害予測手法

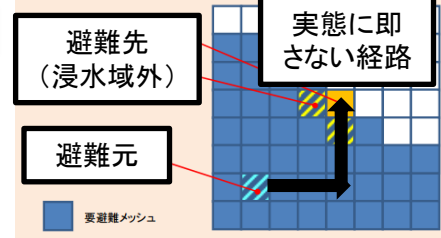
歩行速度は一定であり積雪、暗夜による避難速度の遅延など環境条件による影響を考慮できない

道路密度が小さい広域・低密度の地域

最短距離による避難計画では低密度な北海道では誤差が大きい

時間の要するまちづくり

市街地の再編、海岸保全施設等の整備の評価に必要な時間経過



マクロ的評価手法の概要

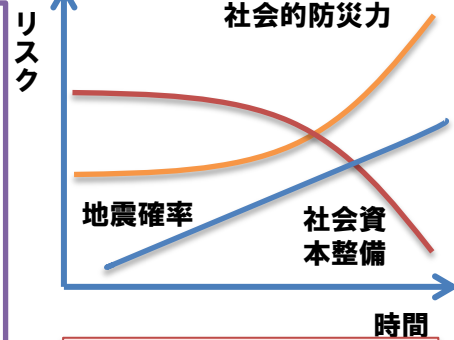
- ✓ 避難経路は使えるか？
- ✓ 冬季の避難速度は？
- ✓ 避難先は安全か？

目的

- 積雪寒冷や暗夜条件などによる最大リスクの評価手法並びに都市・地域の人口や土地利用の経時変化を考慮した津波防災対策効果の評価手法を開発
- 具体の市町村で津波避難計画や津波防災地域づくり計画を作成するなどにより実証的に展開

研究概要

- 1) 北海道の環境条件を考慮した津波リスク評価手法の開発
避難経路の使用可能性評価、避難速度の測定(図1)、避難場所の妥当性評価
- 2) 時間的変化を考慮した防災対策効果の評価手法の開発
地域レベルでの人口変動予測(図2)、土地利用計画に基づく地域の変遷予測、海岸保全施設等の整備による浸水域の変化の予測、現時点と時間経過後のリスク比較(図3)
- 3) 津波対策決定プロセスを支援する防災計画の定量的評価手法の開発
防災対策にともなう対策コスト・安全性・利便性・地域産業への影響評価、AHPを適用した防災まちづくり案の評価(図4)、津波対策決定プロセスの提案
- 4) 地域における計画策定を通じた実証的展開
地域における課題整理、評価の実施、津波避難計画及び防災まちづくり案の検討



- ✓ 時間で変化するリスク
- ✓ 防災対策はいつ行うか？

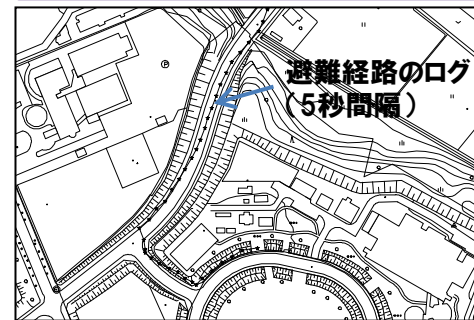


図1 GPSを用いた歩行速度の計測

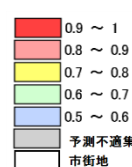


図2 地域別の人口予測

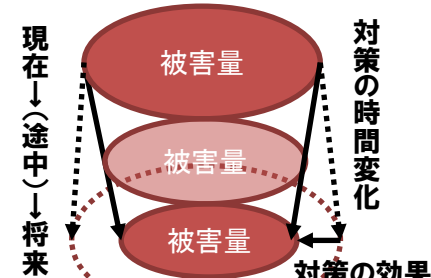


図3 被害予測比較

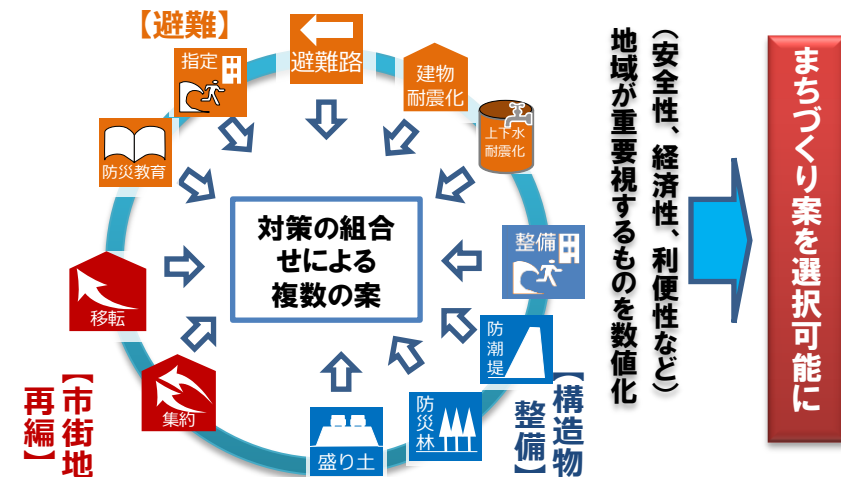


図4 防災まちづくり案の評価イメージ

- ### 成果活用
- ① 北海道の環境条件を考慮した津波による最大リスク
 - ② 地域の経時変化を考慮した防災対策効果
 - ③ リスク評価の結果を踏まえた防災対策の優先度

北海道との連携

道総研の技術支援

市町村が津波防災対策へ活用し、住民の生命を守る

	<h2>厚岸町</h2> <p>あつけしちょう</p>	
	釧路総合振興局	
人口	9,703人 <small>(平成29年7月31日住民基本台帳)</small>	
面積	739.26km ²	
基幹産業	漁業(カキ、アサリ、ツブ、ホッキ、昆布、毛ガニ、花咲ガニ、北海しまえび、サンマ、サケなど)、酪農業、林業、しいたけ栽培など	ホームページ https://www.akkeshi-town.jp
概要 <small>(位置・地勢・気候・歴史等)</small>	厚岸町は東北海道で最も早く開けたところで、松前藩によるアッケシ場所の開設は寛永年間(1624～1643年)とされ、文化元年(1804年)には、蝦夷三官寺として、また、道東文化発祥の地として長い歴史を誇っており、天然の良港と牡蠣を代表とする海の幸、屯田兵の入植から開拓された酪農郷と相まって発展してきました。昭和30年には厚岸道立自然公園の指定を受け、平成5年には厚岸湖・別寒辺牛湿原がラムサール条約に登録されるなど豊かな自然環境にも恵まれており、それら豊富な地域資源をいかし、守る自然と共存するまちです。	
海・湖	太平洋・厚岸湾・厚岸湖・愛冠岬	
河川	二級河川尾幌川	
JR駅	厚岸駅、上尾幌駅、尾幌駅、門静駅、糸魚沢駅	
国道	国道44号線(釧根国道)、国道272号線(釧標国道)	
道道	道道14号線(厚岸標茶線)、道道123号線(別海厚岸線)、道道221号線(塘路厚岸線)、道道425号線(厚岸停車場線)等	
道の駅	道の駅厚岸グルメパーク「コンキリエ」	
港	厚岸漁港、床潭漁港	
公立病院	町立厚岸病院	
高校	厚岸翔洋高等学校	